

GSC022-04

会場:301A

時間:5月23日 09:15-09:30

新たな観光資源「トマムの雲海」を通じた産学連携の環境教育～トマム雲海仙人の雲修行～

Environmental education by new sightseeing resources, "cloud sea at Mt. Tomamu" in Hokkaido, Japan

中村 一樹¹, 山中 康裕^{1*}

Kazuki Nakamura¹, Yasuhiro Yamanaka^{1*}

¹ 北海道大学大学院地球環境科学研究院

¹ Faculty of Environmental Earth Science

図は、北海道占冠村に位置するトマム山の雲海テラス（標高 1088 m地点）から撮影した雲海である。スキー場のゴンドラ整備担当従業員の一言がきっかけで、それまで気づかなかったトマム特有の立地と夏シーズンの気象条件が生み出す幻想的な雲海の出現の価値に気づき、2006年から雲海テラス（2005年は山のテラス）として営業している。この雲海テラスという場を利用して試みた2つの学びの実践について報告する。2つの学びとは、新しい雲の環境教育プログラムを通じた訪れる観光客の学び、もうひとつは、新しいプログラムの開発に大学院生が関わることによる大学院生自身の学びに関わるものである。景色を観るだけではなく一歩深めたツアーとすることが雲海観光の課題となっており、この取り組みを通じて課題の解決を図った。

(1) 雲のプログラムを通じた観光客の学び

札幌市の小学生全員に月1回配布されている環境新聞「エコチル」紙面の特集記事と連携し、親子が「雲」について学ぶ1泊2日の親子ツアーを対象としてプログラムを作成した。トマム山に住む雲海仙人からお告げがあり、仙人の代わりに「雲」について調べるというストーリー性を持たせた。具体的には、雲の観察、雲に関わるゲームやクイズ、雲海テラスでの雲海観察など、親子で楽しみながら学ぶ内容とした。「雲を好きになる」が、このプログラムのコンセプトであり、子ども達が帰宅してからも雲、気象そして環境に対する興味を持続してくれることを期待している。

(2) EPoCH コースインターンシップ実習による大学院生の学び

本取り組みは、北海道大学環境科学院の課外コースとして2010年5月に新設された、環境プロジェクトコーディネーターコース（EPoCH）の実践の場のひとつとなっている。（株）星野リゾート・トマムと連携してインターンシップの取り組みとすることで、大学院のコース生は、社会の中の仕事の進め方、課題の解決の仕方を実践で学びながら、新しい教育プログラムの開発に関わることができる。

この取り組みを通じて「雲海」という観光資源を「観て」楽しむだけでなく、「知って」、「触れて」楽しむ新しい観光プログラムの作成を産学連携により実現できた。2010年9月に行われた環境新聞エコチルのツアーの中で、作成したプログラムを実施した。今後、EPoCHを発展させて2011年度に正式にスタートする北海道大学大学院環境科学院環境起学専攻実践環境科学コースの大学院教育の一環として、プログラム内容を改善し、2011年夏シーズンから一般の観光客向けに運用する予定である。

この取り組みを行うにあたり、協力していただいた（株）星野リゾート・トマム、北海道大学関係者に感謝申し上げます。



キーワード: 雲海, 観光, 環境教育

Keywords: cloud sea, sightseeing, environmental education